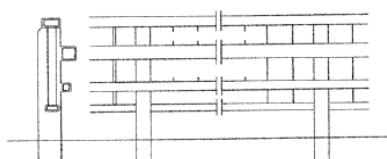
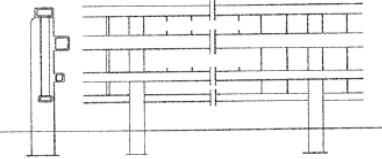


土木工事標準積算基準書 一部改正 新旧対照表

工種	橋梁工
----	-----

改正理由	一部改正		備 考																																																											
現 行	改 正																																																													
<p>[B — 5]</p>  <p>(注) 工数の補正は、表 3.17 に従って伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路の製作にも適用する。</p> <p>表3.17 付属物の工数の補正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>重 連</th> <th>斜 橋</th> <th>曲 線 橋</th> <th>桁 高 变 化</th> <th>平均 支 間 長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸 縮 継 手</td> <td>○*</td> <td>○**</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>高 檻</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○***</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>橋 梁 用 防 護 柵</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○***</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>検 査 路</td> <td>○*</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>○：補正を行う ×：補正を行わない</p> <p>(注) * : 伸縮継手、検査路の重連による補正是、表 3.8 の補正を適用する。ただし、連数は橋梁本体と同様とする。 ** : 伸縮継手の斜橋による補正是、表 3.9 の「箱桁形式以外」の場合の補正を適用する。 *** : 高欄、橋梁用防護柵の曲線による補正是、表 3.10 の「箱桁形式以外」の場合の補正を適用する。</p> <p>(4) 単独で、伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路を発注する場合の積算にあたっては、間接工事費の取扱いは、鋼橋工場製作工事と同じとする。 なお、ゴム系伸縮継手の積算にあたっては、「第VI編第2章⑥-1 橋梁用伸縮継手装置設置工」による。</p> <p>(5) 鋼橋工場製作工事に係る支承の積算は製品価格（支承メーカーの販売価格）を材料費明細書に計上し、工場管理費の取扱いは一般的な鋼材と同様とする。 (イ) 支承の運搬は、一般橋梁部材の運搬と同じ扱いとし、運搬部材質量の中に入れて積算する。 (ロ) 支承の塗装は、中塗り、上塗りを現場塗装として計上するものとする。</p> <p>3-2 製作工労務単価 工場製作における工数単価（直接労務費）は <u>27,100 円</u> とする。</p>	種 別	重 連	斜 橋	曲 線 橋	桁 高 变 化	平均 支 間 長	伸 縮 継 手	○*	○**	×	×	×	高 檻	×	×	○***	×	×	橋 梁 用 防 護 柵	×	×	○***	×	×	検 査 路	○*	×	×	×	×	<p>[B — 5]</p>  <p>(注) 工数の補正は、表 3.17 に従って伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路の製作にも適用する。</p> <p>表3.17 付属物の工数の補正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>重 連</th> <th>斜 橋</th> <th>曲 線 橋</th> <th>桁 高 变 化</th> <th>平均 支 間 長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸 縮 継 手</td> <td>○*</td> <td>○**</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>高 檻</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○***</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>橋 梁 用 防 護 柵</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○***</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>検 査 路</td> <td>○*</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>○：補正を行う ×：補正を行わない</p> <p>(注) * : 伸縮継手、検査路の重連による補正是、表 3.8 の補正を適用する。ただし、連数は橋梁本体と同様とする。 ** : 伸縮継手の斜橋による補正是、表 3.9 の「箱桁形式以外」の場合の補正を適用する。 *** : 高欄、橋梁用防護柵の曲線による補正是、表 3.10 の「箱桁形式以外」の場合の補正を適用する。</p> <p>(4) 単独で、伸縮継手、高欄、橋梁用防護柵、検査路を発注する場合の積算にあたっては、間接工事費の取扱いは、鋼橋工場製作工事と同じとする。 なお、ゴム系伸縮継手の積算にあたっては、「第VI編第2章⑥-1 橋梁用伸縮継手装置設置工」による。</p> <p>(5) 鋼橋工場製作工事に係る支承の積算は製品価格（支承メーカーの販売価格）を材料費明細書に計上し、工場管理費の取扱いは一般的な鋼材と同様とする。 (イ) 支承の運搬は、一般橋梁部材の運搬と同じ扱いとし、運搬部材質量の中に入れて積算する。 (ロ) 支承の塗装は、中塗り、上塗りを現場塗装として計上するものとする。</p> <p>3-2 製作工労務単価 工場製作における工数単価（直接労務費）は <u>27,500 円</u> とする。</p>	種 別	重 連	斜 橋	曲 線 橋	桁 高 变 化	平均 支 間 長	伸 縮 継 手	○*	○**	×	×	×	高 檻	×	×	○***	×	×	橋 梁 用 防 護 柵	×	×	○***	×	×	検 査 路	○*	×	×	×	×	単価改正
種 別	重 連	斜 橋	曲 線 橋	桁 高 变 化	平均 支 間 長																																																									
伸 縮 継 手	○*	○**	×	×	×																																																									
高 檻	×	×	○***	×	×																																																									
橋 梁 用 防 護 柵	×	×	○***	×	×																																																									
検 査 路	○*	×	×	×	×																																																									
種 別	重 連	斜 橋	曲 線 橋	桁 高 变 化	平均 支 間 長																																																									
伸 縮 継 手	○*	○**	×	×	×																																																									
高 檻	×	×	○***	×	×																																																									
橋 梁 用 防 護 柵	×	×	○***	×	×																																																									
検 査 路	○*	×	×	×	×																																																									